

伍桃だより

伍桃だよりの発行にあたって……………	2
学長からのメッセージ……………	2
大学だより……………	3
学科近況……………	4
卒業生だより……………	6
学友会だより……………	7
お知らせ……………	8

2006.10

第1号



伍桃だよりの発行にあたって

新潟医療福祉大学同窓会長 齊藤 公二



日頃より新潟医療福祉大学同窓会に対しましてご理解・ご協力を賜りまして誠に有難うございます。会員の皆様方におかれましては、各方面でご活躍のことと存じます。

さて、このたび、「伍桃だより」を発行するに至りました。その背景といたしましては、かねてから他に先駆けてスペシャリストの有益性、チーム医療の必要性を認識していた本学であります。実際、卒業生に現在どう生かされ、還元されているのか誰もが気になるころかと思われま。そこで本誌を通じまして「伍桃」だけで

は伝えきれないそれらの情報を皆様方に伝えるべく、そしてタイムリーな現場の状況・本学の動きを伝えるべく発行に至りました。

チーム医療の伝承者として一線で活躍する卒業生、伝統を引き継ぎながらも新しいものを生み出す在学生。今後もそれぞれの情報を余すところなく発信していきたいと考えております。

これを契機にさらなる本会の発展と本学の躍進を願ひ、ご挨拶といたします。

学長からのメッセージ

広く考え、深く究めよう

新潟医療福祉大学長 高橋 榮明



9月26日に、安倍内閣が組閣を終え船出をした。新しい内閣で新鮮な顔ぶれで、日本の改革の継続が期待される。一方、東アジアでは北朝鮮が原子爆弾の実験を行い、非常に不安定要素そして挙げられている。日本では少子高齢化社会がますます進み、特殊出生率は1.25と今までにない低い数字となっている。そのような時に平均寿命は男性78.53歳、女性85.49歳である。団塊の時代が、いよいよ今後10年間、大量に定年を迎える。このような日本の社会に応じて、医療保険制度・介護保険制度が改定され、病院でリハビリの点数が厳しく低く抑えられ、高齢者の医療費の自己負担率も上昇している。看護師の需要増があり、健康運動指導士などの今後活躍が期待される。

このような社会情勢に応じて、平成19年度から本学は3学部体制に変更される。医療技術学部は、理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科および平成19年度に新設される義肢装具自立支援学科から構成される。新しい健康科学部は、健康栄養学科、平成17年度に新設された健康スポーツ学科、そして平成18年度に新設の看護学科の3学科から構成される。社会福祉学部は社会福祉学科および平成18年度に新設された介護福祉コースがこれに含まれる。このように、保健あるいは健康、健康増進という分野を含めて、医療・福祉と3学部体制になって、現在私たちは学部学生が1,670名在籍する。(平成18年5月1日現在)

大学院としては、修士課程が平成17年度に設置され、平成19年度からは大学院博士課程を新設する予定である。従って、このような情勢で保健医療福祉分野において、本学は保健医療福祉分野における総合大学を目指して進んでいる。全国各地にいる同窓生の諸君は、是非時々、本学のホームページを見て頂きたい。

さて、開学以来皆さんは、基礎ゼミⅡを経験し、他学科の学生と一緒に協働作業を行なった経験がある。一部では総合ゼミで専門性が高まった4年次にそのような経験をしたが、これを平成20年度から全学の学生に総合ゼミとして経験できるように準備中である。

大学院修士課程では、共通科目として保健医療福祉連携学特論では、保健医療福祉分野における現在実施されている連携の内容を学んでいる。実際に皆さんは職場において連携という経験をしているだろうか。是非皆さんは保健医療福祉分野で最近起こっていることを学び、そしていかに皆さんの専門性を十分発揮し、究め、連携がうまくいくように考えて頂きたい。これは「広く考え、深く究める」という重要性を示しているものである。皆さんの心の中には、連携・チームワークが重要であるとの認識の種があり、それを皆さんは芽を出して大きな幹にしてほしい。皆さんの経験を他の卒業生あるいは在校生とともに共有したいので、その経験を簡単に教務課の方へ申告して頂きたい。それによって毎回、同窓会の総会の時にそれを共有化する時間を持ちたいと願っている。

大学だより

“伍桃だより” (第1号) 創刊にあたり —生きる支え・源泉を求めて—

医療技術学部長 黒川 幸雄



今年3月の卒業式に2回生を社会に送り出し、大学と社会の結びつきを構築すべく端緒をついたわけですが、保健医療福祉の分野は改革の余波を受けて厳しい状況に立っています。本学卒業生諸君が、そうした社会環境にあって逞しく活躍してくださることを切に期待しております。

卒業生諸君にとって、学び舎の大学がいつも誇れるものであり、心の支えとなっていますか。辛い時にも楽しい時にも学友は、側に来てくれますか。チャレンジしているときに勇気もらい、叱咤激励をしてくれますか。この逆もあります。そうした人間精神の源泉に徐々に大学はなっているのか。

本学は学生間のコミュニケーション、学生と教員とのコミュニケーションを深めるため入学当初より基礎ゼミを始めとする教育課程、更には卒業研究・国家試験・就活等のゼミ活動で心の交流を基礎にした学習教育活動を展開しています。こうした教育が卒後の諸君の生活に役に立っていますか。

大学の伝統の中心を築くのは、卒業生諸君であります。同窓会はその担い手であります。その意向を反映して大学は、誇りある優しい雰囲気、満ちたキャンパスを創造する任務にあたっています。是非卒業生諸君の意向を大学に寄せて下さい。

この“伍桃だより”をパイプにして共に共鳴していける場を構築して、生きる支え、創造の泉に大学がなるよう努力して参りましょう。

学科長に就任して

言語聴覚学科長 大橋 靖



新潟医療福祉大学言語聴覚学科卒業生の皆さんにはますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

私、平成18年4月から学科長を務めています。なかなか卒業生の皆さんにお会いする機会もないため、ご無沙汰いたしておりますがどうぞよろしくお願いいたします。

学科長に就任してからやっと6ヶ月が経ちましたが、まだ学科の基礎が十分に固まっていないこの時期、たくさんの方の問題を抱え、日々仕事に追いまわられているというのが実感です。

学科長就任に当たってのメッセージをというご依頼ですので、卒業生の皆さんに日ごろ期待していることを1、

2書いてみます。

現在のシステムでは臨床実習を学外にお願いしなければなりません、われわれとしては早く卒業生の皆さんがスーパーバイザーとして後輩の教育に当たっていただける日がくることを首を長くして待っております。皆さんの母校愛と可愛い後輩の育成にける心意気に大いに期待しております。ぜひその時が来ましたら皆さんの力を貸してください。

一方で日々の臨床において疑問や問題に気づかれておられることと思います。そのような直接的な問題の解決には大学院での研究が役立ちます。臨床での問題をそのままにすることなく学問的に解明する楽しみを共にしませんか。臨床経験に基づく研究を皆さんと共にできる機会を教員は皆待っています。

以上が卒業生の皆さんに今期待していることです。母校発展のために今まで以上にお力を貸してください。お願いします。

皆さんのますますのご活躍を祈念しております。

看護学科長就任に当たっての メッセージ

看護学科長 渋谷 優子



平成18年度に看護学科が開設できたことは本学にとって、保健・医療・福祉の連携・融合教育に一層の充実を図り、本学の開学当初からの念願が実現されたことの意味を大切に、今後、本学の一層の発展に貢献できるよう微力ながら努力する所存です。

本学科は、新潟県で4番目の看護系大学であり、今年看護系大学が144校となり、全国看護学生入学定員の約20%を占めるに至り看護学教育は大学化傾向にあります。本学士課程では社会の要請に対応した看護実践力を持つ質の高いジェネラリストを育成します。まず、自ら学ぶ態度を身につける看護学教育は人間性の豊かさの涵養を目標にし、日頃から触れ合いを大切にし、関わり合いから吸収し、提供して自分を磨き育てることです。学習は自ら実感し納得できる体験学習が重要です。自ら五感を活用することで感性が豊かになり、学んだ情報を表現し、相互に交換し、共有することで更に発展する学習効果は素晴らしい。1年生のフィールド体験実習を通して実感できた。学内演習ではPBL (Problem Based Learning) の少人数グループ教育法を取り入れ学生が主体的に自己学習し、自ら学ぶ力を付け積極的に参加している。今後は大学の4年間を計画的に学ぶため、見通しを持ち気持ちを安定して励める教育環境を整備することと考えます。

本学科は看護の質向上に貢献する大学院を来年開設する予定です。当面は現場の専門性の高い高度な実践能力を持つ人材の教育で、専門分野として、がん看護学と母子看護学からスタートする計画です。今後は管理者や看護教育者を目指すマネジメント能力、大学院教育もできる教育・研究能力を持つ人材の育成です。詳しいことはご連絡下さい。

学 科 近 況

近況報告を兼ねて一言 —人間を大切に、自分を大切に—

理学療法学科長 黒川 幸雄

最近の学生は、打たれ弱いと一口で言うのは止めよう。格差社会は現実のデータが証明している、勝ち組負け組論も何かシッカリしない、そして勝ち組に擦り寄る社会的風潮もよしとしない。人が自分のかけがえのない人生を大事にしていくという精神を大事にしていく心を見直して欲しい。だから何があってもあきらめないで自分を大切にしていき続ける方向性を探っていって欲しい。関係者でよくよく、諦めないで話し合う必要がある。

臨床実習の場で様々なストレスを受け、過剰防衛反応となってその学生を予想だにしない様々な状態へ導いたとしても、それは事実ですので冷静に受け止めなければならぬでしょう。そこが新たな自分の出発点で迷路に入り込まないように冷静沈着に対応して、その「道草的」から抜け出る算段を考えましょう。

臨床実習という鏡の前に立って人間を映し出し、理学療法学生を映し出し、何かを問おとしている。その必要が自分にはあるのだという平静さで理解しましょう。混乱は避けましょう。弱い自分であれば、弱さから出発しましょう。あくまでも人間として、これからが人生、自らの時間に人生の質を付け加えていきます。それが理学療法士となった暁に、患者様・障害を有した人によりサービスを提供できる人間の質を形成することに繋がっています。

卒業生諸君、悩み苦しむ同窓生がいましたら手を差し伸べてみましょう。このニューズレター創刊にあたり、一言。

OT学科近況

作業療法学科教授 大山 峰生

卒業生の皆さんお元気ですか。卒業直後の5月の連休には早くも学校を訪れてくれた人もいて感激しました。1期生も2期生も折に触れて顔を出してくれます。教員一同、皆さんの母校への思いを裏切らないよう良い教育に努めます。

さて、在校生の近況をお知らせします。4年生(3期生)の4ヶ月間にわたる総合実習を終え、早くも10月から3年生(4期生)の評価実習が始まりました。今はその真最中にあり、皆順調に実習を遂行していることと確信?しております。なんととっても、実習の前には今までお目にかかったことの無い猛勉強ぶりと、執拗なまでの質問攻めですから、はっきり言って全員合格、間違い無いでしょう。どの学年もそうですが、ギリギリになって初めて勉強を開始し、いざ実習が始まる時には息切れでアップアップ。またはタイムオーバー。もう少し早くから始めれば、より気楽に実習ができるものと毎年のように思います。しかし、この実習が始まる時期からは、学生さんは自分の能力を自覚し、急

激に大きく成長するものだとも実感しております。この機会を活用して精一杯努力されることを期待しております。

2年生(5期生)は、夏休みの一週間に一日5コマの地獄の運動学実習を行いました。今年からは濱口先生、能登先生、PTの佐藤先生の担当する実習も加わり、より充実した内容になりました。2年生の皆さん、本当にお疲れ様でした。

4年生は、いよいよ国試対策。9月27日に第1回OT総合国試模擬試験が行われました。第1回というのは、大半の学生にとって、勘の能力を試し、知識量を自覚するためのテスト。早く勘を使わなくても回答できる知識を付けて、全員合格を目指して連続100%の記録を更新して欲しいものです。

10月の大学祭では、4年生恒例の餅つき喫茶(タイトル:妬もち焼♡)、どんな楽しい催しがあるかとも楽しみです。またこれは4年生にとっては国試、卒研に向けての景気づけ、OT学科教員一同、期待しているところです。

言語聴覚学科の近況について

言語聴覚学科長 大橋 靖

言語聴覚学科の近況を紹介します。

教員の移動について: II期生の皆さんはすでにご存知のことですが昨年の7月に志村栄二助手が、10月には西尾正輝助教授が着任されました。一方で、3月末日をもって開学準備から在職され本学科の基礎を作られてきた磯野信策教授、同じく開学時から在籍された相場恵美子講師、杉山貴子講師が退職されました。平成18年度に入ってから4月1日付で学科長に大橋が新任し、市島民子先生が教授に昇任されました。また、7月には山岸達弥助教授が着任されています。このような教員の急激な異動についてはいろいろとお聞きになっているかとも思いますが、現在ではその衝撃も乗り越えてみな一丸となってよりよい言語聴覚学科の確立を目指して頑張っておりますのでご安心ください。

国家試験対策について: 言語聴覚学科にとって国家試験は大きな問題です。皆さんには申し訳ないことでしたが一期生では予想をはるかに下回る結果でした。しかし、今年3月に行われた国家試験では一期生、二期生ともに60%を超える成績で、まだまだ十分ではありませんが着実に向上してきています。私たちとしては当然100%を目標にして更なるきめ細かい指導体制をとるようにしています。実習などで4年生が全員大学に集うことが難しい中、何とかやりくりして7月の末から8月の始めにかけて1週間の特別講義の期間を設け、集中的に勉強するカリキュラムを組みました。その結果明らかに成績が向上しています。また、各ゼミでもきめ細かい指導を行い不得意科目の克服を期しています。卒業生諸君からは合格鉛筆の寄贈など物心両面のご援助をいただき感謝しています。今後ともよろしく応援お願いいたします。

健康栄養学科近況

健康栄養学科教授 遠藤 和男

ご存知の方も多いと思いますが、昨年の7月に信楽園病院から、渡邊榮吉先生を助教授としてお迎えし、臨床

栄養学などを担当していただいております。先生は日本糖尿病療養指導士、病態栄養専門師や日本病態栄養学会認定NSTコーディネータの資格をお持ちで、特に後2者の県内有資格者は希少です。今年の4月には山崎貴子先生の講師昇格等に伴い、助手として岡田千沙先生、五百川知子先生が採用され、専任教員の平均年齢が随分と下がりました。

卒業生の関係では、卒1の田中正仁君と卒2の山口正樹君が宣伝を兼ねて来校されました。低蛋白質ごはんを提供してもらい、渡邊先生の「臨床栄養学実習Ⅰ」で使うことができました。8月にはいわゆる「栄養教諭」の講習会が本学を会場として開催され、卒1の齊藤公二君をはじめ、神田直子さん、竹内ます美さん、栃木雪江さんが参加されました。大学院生として卒1の齊藤弓絵さん、卒2の佐々木万衣子さん(他に社会人3名)が在籍中です。

また、元助手の佐野明子先生の女兒に続いて、卒1の早川温子には男児が誕生されました。既に結婚し、出産を控えた学4女性もおります。卒2の丸山益宏君は、かねてうわさの福島美登利さんが出産された後に、ご成婚の運びとなるそうです。

このように目出度いこと続きのようですが、年々新生との年齢差は開くばかりです。ただし卒業生との年齢差は昔のままなのが、せめてもの救いという所です。これからも母校を情報源として活用され、お気軽にお立ち寄り願います。

健康スポーツ学科近況

健康スポーツ学科講師 後藤 康志

医療技術学部健康スポーツ学科は平成17年4月に開学した新しい学科です。現在、1期生・2期生合わせて140名あまりが学んでいます。新新バイパスを競馬場インターからおり、大学にアプローチすると、ひときわ背の高い校舎が目に入ります。これが健康スポーツ学科の新校舎です。第3研究・体育棟と名付けられたこの施設は、スポーツ学科、教養教育(語学、情報など)の教員の研究棟である6階建ての建物を中心として、隣接して第二体育館、全天候型温水プール、トレーニング・センターを備え、運動生理学やスポーツ医科学の実験・実習施設としての機能を果たしています。プールについては水泳大会の会場として活用されるなど、地域のスポーツ拠点としての機能も果たしています。

コースとしては、①テーピング・マッサージや運動生理学を学ぶスポーツ医科学コース、②スポーツ経営学やスポーツビジネスを学ぶスポーツマネジメントコース、③保健体育教師あるいは各種指導者としての指導法や体育実技、教育原理などを学ぶ指導者・教員養成コースが用意されています。1年次から中学・高校の保健体育授業を参観する観察実習を取り入れるなどユニークで実践的な教育が展開されています。

健康スポーツ学科は、新しい時代の要請に応え、平成19年度から健康栄養学科、看護学科と共に健康科学部として改組され、定員も60名から100名へと増員になります。健康を運動やスポーツの立場から支えるQOLサポーターの育成を目指して、学生も教員も日々努力しています。

看護学科の近況

看護学科長 渋谷 優子

本年度の本学科開設時は、20名(教養教育教授1名含む)の教員構成で開始した。新入学生は88名です。入学式も済み、平成18年度看護学科オリエンテーションを4月8日(土)にNSGカレッジリー学生総合プラザSTEPに集まり実施した。4年間の学生生活に向けて共に学び、成長し、充実した毎日を送れるように一人ひとりが可能な目標を見いだせる機会にした。プログラムの一つにディベートを実施した。グループワークに参加しよく考え、よく聞き、よく話し、仲間意識を持てるようにした。

授業では、基礎看護学のフィジカルアセスメント(ヘルスアセスメントは身体的、心理・社会的に広く統合したアセスメントであり、主に身体状態に焦点を当てた)を看護の対象を捉える演習で、PBL方式による少人数制のグループワークを実施した。身体を6テーマに分け、1年間でアセスメントができるように実施していく。思考過程や自主学習方法として有効に作用しPBL方式は4年間継続し事例検討にも展開する。

看護学実習では、フィールド体験実習を医療施設と地域の見学実習を通して看護職の実際を理解するために実施した。6月12日～16日、19日～23日の中で地域と医療施設の見学実習を行った。学生の取り組みは現場の説明を受け、5感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)を駆使し観察し情報収集して、体験し理解を深めた。発表では体験して学ぶ重要性の意味に気づき始めていた。今後の学びに期待する所である。

社会福祉学科近況

社会福祉学科長 塩見 義彦

一期生・二期生の皆さん、その後いかがお過ごしですか?早いもので大学も開学以来5回目の秋を迎え、年々拡充、変貌を遂げております。

山手学部長も、平成17年3月をもって大学院中心となられ、新学部長に順天堂大学医学部から米林教授が着任されました。また、本年4月には、介護福祉コースが新設され、来年4月からは、大学院に博士課程も開設される予定です。皆さんも博士の学位取得にチャレンジしませんか? 建物の様子も大きく変わってきております。昨年の看護棟に引き続き、今年も研究棟の山側に新棟建設の槌音が遅く鳴り響いています。

一方、皆さんにも関心の高い「社会福祉士」及び「精神保健福祉士」の国家試験結果ですが、次のような状況です。

	平成16年度(一期生)	平成17年度(二期生)
社会福祉士	63.3%(全国29.8%)	43.3%(全国28.0%)
精神保健福祉士	71.4%(全国61.3%)	70.0%(全国61.3%)

なお、国家試験に再挑戦する卒業生に対して、資料提供や情報提供を行っていますので、合研へ気軽にご連絡ください。

最後に、教職員や在学生にとって、卒業生の皆さんからの活躍の様子は何よりの張り合いです。学科では、卒業生への情報発信や相互の交流を目的としたHPの開設を検討していますので、是非、近況等をお知らせください。

卒業生だより

長谷川 千鶴

(三之町病院 理学療法士)

就職して半年が経とうとしていますがこの半年は、新病院への引っ越し、回復期病棟の立ち上げなどがあり嵐のように過ぎました。この9月1日に発足した回復期病棟では特にケース会議を綿密に行い、できるADLとしているADLのギャップがないか話し合っています。病棟スタッフからリハへの要望・提案や今後の見通しなどが活発に話し合われ、リハ・病棟スタッフが一丸となって自宅退院を目標に取り組んでいます。

1人の患者様の生活に関わる責任感と、業務に慣れることで四苦八苦しながらも楽しく充実した日々を送っています。経験をたくさん積み幅広い視点から物事を考えられるPTになれるように努力していきたいと思います。

高橋 博美

(豊浦病院 言語聴覚士)

病院では、摂食嚥下障害の方にもリハビリを行っています。そこで、チームアプローチの必要性を実感しています。まずは医師や看護師から、患者さんの情報を収集します。そして、食事のときの姿勢の改善や自力摂取のための補助具の工夫などを、理学療法士や作業療法士と一緒にを行っています。また、患者さんの栄養状態や安全で食べやすい食形態を栄養士と相談します。実際の食事場面では、看護師や介護士に、食事での注意点や安全な食事介助の方法を伝え、患者さんの食事を観察していただきます。このように、他職種のスタッフからも協力を得ながら、リハビリを行っています。これからも他職種間での関わりを大切にしながらがんばっていきます。

小山 良寛

(社会福祉法人 健周福祉会 特別養護老人ホーム 江東園)

大学を卒業して、一人の社会人、介護員として働き、日々の仕事をこなす事が精一杯になり、気が付いたら半年が経ちました。業務では介護の他にも、職員全体での勉強会も度々開かれています。介護技術の向上と共にそれに関する知識も同時に持ち合わせていなければならないことに大変さを痛感しています。

実際働いていると、分からないことが沢山あります。それを解決するために自身での勉強の他に、先輩など多くの人に助けられ支えられていると実感しています。そして講義や講師の方の話が大切だったと改めて思います。また、今働いているこの時にあの頃の講義が聴けたらいいなと思ってしまいます。

半年経っても、また何年経っても初心を忘れずに働いていきたいです。そして、これからも常に疑問と責任感を持ち、質の高い介護を目指したいと思います。

岩波 潤

(特定・特別医療法人慈泉会 相澤病院 作業療法士)

新潟医療福祉大学を卒業してはや半年がたちました。毎日が勉強であり自分に足りないものを痛感しながら、それでも日々を懸命に駆け抜けています。

現場に立ち思うことは各職種との連携の大切さです。一人の患者様に関わる多くの職種が互いを理解し、それぞれの専門性を活かしつつ、同じ方針を目指さなければ決して良い結果はもたらされないのです。

つらいことや悔しいこと、立ち止まりたくなる時もある。その反面で嬉しいことや楽しいことも沢山あって、全てが自分を成長させる糧になる。そう信じてこれからも全力疾走していきます。遠く離れた土地で健闘している仲間たちの姿を思い、今日も僕は頑張ります。

石田 有希恵

(福島県坂下厚生総合病院 管理栄養士)

私の働く病院は農村部にある総合病院で、患者の多くは高齢者が占めています。中規模な病院であるため、献立業務や食数調整、栄養管理など栄養士はすべての業務を行っています。時間のやりくりは大変ですが、その分勉強になっています。

また、今年度から栄養管理実施加算に基づいて『栄養ケア・マネジメント』の業務を推進しているところです。これは新しい試みであるため、地域の病院栄養士との勉強会を開きながら、よりよい方向性を検討しています。これからは、この業務を通して病院内の多職種と連携を図りながら、これから導入されるであろう栄養サポートチーム (NST) の準備をしていきたいと考えています。

蟻浪 幹代

(中越クリーンサービス株式会社 福祉用具専門相談員)

私は今、福祉用具専門相談員として、利用者に合った福祉用具の選定相談等を行っています。数ある介護用品の中から利用者にとって最適なものをケアマネジャーの方と一緒に考えているので、専門知識が要求されます。そのため、現在は介護用品の知識を深めることが私の一番の課題になっています。

そして、利用者を取り巻く専門職の方々と関わり合いながら、介護を必要とする人々が地域で暮らし続けることに期待と自身が持てるように、共に課題解決にあたる存在として役割を担えるようになりたいと思っています。福祉用具専門相談員として勤務してみて、福祉用具は、利用者が在宅で生活していく中で、最も身近にあるもので、生活の質に深く関わっていると改めて実感しました。

今は仕事に慣れることで精一杯で、なかなか私生活を充実させるところまでいきませんが、仕事に慣れ、もう少し余裕がでてきたら趣味など楽しみを見つけていきたいと思っています。

学友会だより

学友会 ～成長から成熟へ～

学生委員会 学友会顧問 秋山 隆之

本学における「伝統」とは何か？学生・教職員が同じ価値観で共通の認識をもち、創造し、培い、伝えていく精神的在り方とは…（平成14年度 学友会リーダーシップ研修会資料より 場所：旧中条町少年自然の家）この高橋学長のメッセージにより、当時初の1・2年生連携により始動した学友会も、現在では会員約1,670名の組織に至るまで成長しております。平成18年度は長島 健介会長（言語聴覚学科 3年）、玉木 宏昌副会長（健康スポーツ学科 2年）を中心とする各学科より選出された学友会スタッフが、リーダーシップを発揮し日々活動しております。

具体的に、学友会スタッフは毎週火曜日の昼休みに集合し、学友会活動全体の管理・運営に取り組んでおります。本年度は①全学生の学園生活の発展。②学友会の活動を通じた自己実現。（文化活動。スポーツ活動。弱い声や少数意見を大切にする。）③学生が抱えている課題の解決。（教職員との連携。運転マナー、地域生活の課題等。）の3つを活動指針としております。特に学生生活の質の向上や学園生活の改善といった問題に対して、学友会が積極的に介入し、課題の解決に向けて「大学」との協働した取り組みを試みております。これは非常に注目すべき点であり、学友会が自治組織としての機能を果たす可能性をみせております。

学友会では、4年間を通じて1人1人の学生が学園生活と密接につながりを感じ、学友会の活動を通じて自己実現できるという観点から、様々な文化活動およびスポーツ活動を支援しております。現在、学友会の認定する文化活動団体、スポーツ活動団体は26団体（文化活動10団体、スポーツ活動16団体。）に昇り、学科をまたぎ同じ趣味、興味をもつ学生が集い、活動を通じて学生がふれあい、学園生活を充実させております。団体により異なりますが、ここでは先輩から多くのことを学び得たことにより、各団体の活動が洗練されつつあります。文化活動団体では地域と連携しながら成長を遂げ、活動が全国的に認知されるにまで至った団体がある一方、スポーツ活動団体では県の競技会において優秀な成績を修め、全国大会に出場するまでの成長をみせている団体もあります。いずれも学生の多様化するニーズ、または学生の自己実現に向けた活動が個人および組織として自立の方向へ向かっており、好ましい傾向であるように感じております。

学生が学友会と密接なつながりを感じ取るのは何と言っても学園祭＝伍桃祭＝であります。本年度の伍桃祭（10月7日・8日）は学友会伍桃祭実行委員会 黒崎諒委員長（健康栄養学科 2年）、比嘉 清香副委員長（理学療法学科 2年）以下42名のスタッフと学友会ス

タッフで連携し企画・運営されました。テーマ「キセキ～軌跡～奇跡と輝石～」の伍桃祭は実行委員の度重なる打合せや、方々への折衝が奏し大成功を修めました。本年度はOB・OGの来校にも配慮し、カフェテラスを設営するなどの工夫もみられました。大学周辺地域の方々を積極的に招き、より大きく開かれた伍桃祭へと成長しております。伍桃祭実行委員会スタッフや学友会スタッフは、伍桃祭の企画・運営を通じてホスピタリティーについて真剣に考える機会を持ち得ることができ、それが後の学友会の様々な活動で生かされております。

建学の精神や大学の理想を実現することに寄与するための活動として発足した学友会も、少しずつではありますが、確実に成長しております。今後は学生のボランティア活動や社会的な活動による地域貢献、また、国際交流を支援する取り組みも新たに検討しております。改善点としては、学友会自体の組織強化としての取り組みが必要と考えております。例えば、総務担当、課外活動担当、事業担当、学内生活担当、地域生活担当、広報担当等の業務分担により、学友会のより明確な活動計画・管理を可能にしたいと考えております。学友会は会員相互の連携により、学科の横のつながり、学年の縦のつながり、大学とのつながり、地域とのつながりを創造し、学生がより生き生きとした姿で活動できる場であることを願っております。

—— 平成18年度学友会所属団体（クラブ） ——

- レクア部（レクア.コム）
- 剣道部
- 準硬式野球部
- 茶道部
- バトミントン部
- 男子バスケットボール部
- 手話部
- フットサル部
- 陸上部
- 写真部
- 軽音部
- 短編映画部
- バイコン部
- 野球部
- 和太鼓部
- 卓球部
- 女子バスケットボール部
- 吹奏楽部
- 弓道部
- 水泳部
- 園芸部
- スキー部
- 女子バレーボール部
- 男子バレーボール部
- 学友会サッカー部
- テニス部



全国大会（開催地：熊本）に出場した野球部

母校の大学院で学んでみませんか！

卒業生の皆さん、お元気ですか。ご無沙汰しております。皆さんにおかれましては、卒業されてからそれぞれの職場の第一線で活躍のことと思います。

さて本学では、平成17年4月に医療福祉学研究科修士課程（保健学専攻・社会福祉学専攻）を設置しました。また来年度の4月には新たに「健康科学専攻」を新設し看護学分野と健康スポーツ学分野を設置する計画です。また医療福祉学専攻（博士課程後期）を設置（認可申請中）し、さらに高度な研究を推進していきます。

医療福祉現場で既にご活躍されている皆さん、あらためて本学大学院で学び、将来、教育者・研究者として、またより高い専門知識を習得した高度職業人として社会や職場に貢献してみませんか！

皆さんが入学する場合は、入学金が半額になります

- 1、平日の授業は18時10分からスタートです。また土曜日の集中講義を利用できます。
 - 2、長期履修制度を利用すると、4年をかけてゆっくり修了することも可能です。
 - 3、各種奨学金を用意し、修学のバックアップをします。
 - 特別研究奨学金（年間15～20万円を給付）
 - 修学援助奨学金（2年次に15～20万円を給付）
 - 日本学生支援機構奨学金
（無利子奨学金月額8万8千円貸与、有利子奨学金月額5～13万貸与）
- ※いずれも選考あり

もう一度専門分野について学んでみたい方、教育者・研究者を目指したい方、母校の大学院で学んでみませんか！

資料請求や詳細についてのお問い合わせは、下記の入試事務室までご連絡をお願い申し上げます。

新潟医療福祉大学 入試事務室

〒950-3198 新潟市島見町1398番地
TEL 025-257-4459
FAX 025-257-4456
E-mail : nyuusi@nuhw.ac.jp

編集後記

同窓会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。
この度同窓会では、会員の皆様に対して母校の近況、会員の皆様の活躍ぶりをお届けしたいと思い、伍桃だより第1号を発行いたしました。
今回編集を行った私たち2期生役員は、今年の4月から現場に入り、社会人として責任を持って仕事をする事の厳しさ、大切さ、やりがいを身にしみ感じております。そんな中で、伍桃だよりを作成することになり、私たちだけでは力不足のため、丸田先生をはじめ多くの先生方、事務の方々のご協力を得て、無事に発行することができました。心から感謝いたします。
伍桃だより第1号はいかがでしたか（◎-◎；）?!?!?
今後この伍桃だよりをよりよくしていくために、会員の皆様の遠慮のないご意見・ご要望・ご感想をお待ちしております（≥▽≤）/
なお、いただいた原稿は原文のまま使用させていただきましたことをご了承ください。

（木村・高橋・渡辺）